

# 赤風

あかかせ

才85号

燃料実力阻止で  
空港の血脈を断て

81.1.20

行 京大三里塚  
闘争委員会  
連絡先  
内線 6539

1

# 兎原根島

## 阻止「リング」公開ヒ



1  
28

島根原兎は山陰を代表する美しい郡市松江からわずか10km、山ひとつ越えた島根県高根島町の海岸にあります。鹿島町は島根県内各町の小さな漁業を分かち合っており、サザエ、マツジなどを中心とした生活をたてていました。中国電力がこの地を原発立地地点として選んだのは88年、そして島根一号炉が運転を開始したのは94年。この間、現地の漁民は一貫して反対してきました。

漁民は「まやかしの『豊かナ』を拒否し、反原発を叫びつづける」  
三田憲 反原発の斗いは、オミセ世界民衆と共に生きる道を開き拓く

「なぜ自分たちが核のそばで暮らさねばならぬのか?」「もっこの美しい海で漁業を続けることができないようになるのでは?」「いっしょに漁民たちの素朴なかつ本質的な疑問に中国電力・県・町は何ら誠意に答えることのないまま、いかに強行採決にもってまわってきたか?」

今、現地の漁民は伝統ある「かなぎ漁」(小舟から海中をのぞいてサザエをとる)が原発の温排水による海水の塩素濃度変化による

「現象」により不可能になるという苦痛の打撃をうけており、同時に放射能汚染という目に見えない重くのしつぶさる海産物は、原発即時廃炉を求めて叫んでいます。そしてこの漁民の斗いを高根原兎の労働者、島根を中心とした学生たちが支援し、反原発の大きなうねりをうくり出してきました。我々京大闘争委員はこれまで橋本賢から島根原発へむかう核燃料輸送車を監視する行動を続けてきました。

三田憲 斗争も反原発の斗いも、国家権力にやりこめられ「公益性」のまやかしのつきやぶる斗いであり、その国家権力がオミセ原を侵略すること、そしてその侵略の上にならば「豊かナ」を拒否し、真にオミセ世界民衆と共に生きる道を開き拓く重要な斗いなのです。

島根原兎 三号炉を阻止し、一号炉を廃炉に迫るのもうらやましい  
昨年10月、中国電力が「島根原兎三号炉建設のための事前環境影響調査報告書」と銘打ち一号炉の手をた影響を全く無視した「調査

を一方的に示そうとしたのを、反原発を叫ぶ人々の結集で突き止まりました。その直前には、島根原兎の沖に放射能汚染物質が検出されたこと、不明な原因で、現地漁民の原発に対する不信感は高まっています。

来る二月8日の「公開ヒアリング」なるものは、各地の原発の例ですべてに知れわたっている通り、原発強行着工のためのアリバイづくりであり、決して住民の意見をまじめるヒアリングするものではなく「おまかせ」にヒアリングを決して許してはなりません。ともに高根 鹿島町へも、公開ヒアリングを阻止し、三号炉阻止、一号炉廃炉を電力資本の横暴を許さず、美しい日本海でとりもたせぬ

「スケジュール」  
一日27日 全国住民交流委員会(午後3時)  
鹿島町古瀬海浜  
松江駅より 加賀  
(松江駅より古瀬海浜まで徒歩15分)  
午後5時より28日11時 結核防止  
阻止行動

三里塚闘争スケジュール  
20日 三里塚闘争委員会 4時  
文学部学生自治会  
24日 燃料輸送阻止統一闘争委員会  
主催 動物千葉・反社同盟  
午後5時半より  
千葉市民会館にて

調査

# 怒りを紡ぎ出せ

三里塚—戦闘宣言—

龍野 燎介

—投稿—

大都会は真実ではない、それは夜を  
昏く、夜を、動物や子供を、  
大都会は、沈黙でいつわり、騒音や  
徒情な事柄でいつわるのだ。(リルケ)

奴隷か、犯罪者か、はたまた病人か、我々  
は、一体何ものなのかに、この京都において、こ  
の日本において、この世界において、

我々の住むこの街は、偽りに満ちた空間—

偽りを偽りでごまかし、更に偽りで、

……そうして、もっともらしく装って

しる前衛的な偽りの空間。

子供は、カブト虫と野菜が「アート」で採れ  
ることを疑わず、木の登り方を知らない。

母親は「そんなこと知らなくていいのよ、

しっかり勉強を遂げていたら、きっと百姓の

上に立つ女にならるるんだから」と優し

くその言葉を吐く。

子供は、首尾よく大学に入るが、国鉄の  
「空を見て海を、山を、空を知らずに育った  
」ことを悟る。そこで「ツマー」に行き「海

を「山」を「空」を知る。知る、知る、知る

、全てのことを機械的に知る。風は「空で」

「空間」を知り、夜は麻雀やコンパで「友情

を知る。TVゲームで「近代科学技術の粋」

を知り、エ宿のTVで「開巻のCMを見て」

「エネルギー危機」を知り、早稲村健一の世相

講談で「世の中」を知る。あつは「世の中

「海外」を知り、たら、五派な「国際的社交人

」。キーセン銀行で「この三つを」夢に空く

知る。無事、学業を放棄し、母親の予言通り

「百姓の上にならなう」になる。結婚し

「家庭の幸福」を築き、「おんな大日記」を

書き、月に二週間に隔り、

この街は、「この子供を孕み、孕み、そして

たれ流す女」に産み続ける。そして、いつし

か、我々の中に、そいつが「匹馬」に住みつく。

それは、内側から我々を押し潰そうとする

。外側に張りめぐらされた分厚い「管理の網」と

力をあわせて、我々の牙を抜き、創造性を去

り、我々を「空を見て海を、山を、空を知らずに育った

」ことを悟る。そこで「ツマー」に行き「海

を「山」を「空」を知る。知る、知る、知る

我々の有機的な人間関係は限りなく解体され、  
それを象徴するよつな無機的な街並みの、  
ペリとひろがり、若狭の原発労働者と放射能  
で殺して作った悪意を使ってまばゆく彩られ  
る。

いや、いや、「寺」と「神社」で

れらまでの体裁の統制をやしてはいるものの

この街は、

地べたに目をまよりつけてでも聞きたいの

だ、人間の本当の熱い叫びを、

この空間を振り成す目には見えぬ繊維を使

ってこそ紡ぎ出さなければならぬのだ、澄み切った空

を、

紡がれたたりはその形象化を、

造の場を求めて彷徨する、はてしなく

我々の怒りは、今年81年を、この街並に向

けて、そして「この街並を襲う」のく固い論理

の無残な出現、あの三里塚丘陵に向けて、数

くは響き渡るのだ、